

第5回麻生区区民会議（全体会議）

- 1 開催日時 平成23年8月29日（月）午後3時～午後4時44分
- 2 開催場所 麻生区役所第1会議室
- 3 出席者 [委員]
天野委員、飯塚委員、石井委員、植木委員、魚本委員、
大高委員、勝田委員、金光委員、鴨志田委員、菅原委員、
高瀬委員、竹市委員、武濤委員、田中委員、土井委員、
東川委員、福田委員、柳島委員、山崎委員
(欠席) 梶委員
[参与]
月本参与
(欠席) 雨笠参与、勝又参与、木庭参与、花輪参与、山崎参与、
相原参与、吉田参与
[区役所]
瀧峠区長、渡辺副区長、小沼区民サービス部長、檀市民税担当部長、
石川保健福祉センター所長、木下保健福祉センター副所長、
中山こども支援室長、江澤道路公園センター所長、原橋総務課長、
[事務局]
安生企画課長、阿部企画課担当係長
- 4 傍聴 2人
- 5 次第
 - 1 開会
 - 2 議事
 - (1) 地域交流・文化部会の検討経過報告及び意見交換について
 - (2) 環境・緑化部会の検討経過報告及び意見交換について
 - (3) 企画部会の検討経過報告及び意見交換について
 - 3 その他
 - (1) 第5回麻生区区民会議開催日程について
 - (2) その他
 - 4 閉会

【配布資料一覧】

「次第」

- 資料1-1 地域交流・文化部会調査・審議状況
- 資料1-2 「高齢者・障がい者などが暮らしやすい環境づくり」について
- 資料1-3 「区民が主体となって進める芸術・文化のまちづくり」について
- 資料1-4 地域交流・文化部会スケジュール（案）
- 資料2-1 環境・緑化部会調査・審議状況
- 資料2-2 麻生区生ごみアンケート集計結果中間報告
- 資料2-3 グリーンアップ・里山ボランティアについて
- 資料2-4 里山ボランティア活動候補地一覧
- 資料2-5 環境・緑化部会スケジュール（案）
- 資料3-1 麻生区区民会議フォーラムについて
- 資料3-2 麻生区区民会議フォーラムプログラム
- 資料3-3 麻生区区民会議フォーラム役割分担一覧
- 資料3-4 麻生区区民会議フォーラム参加者アンケート（案）
- 資料3-5 麻生区区民会議フォーラム配置図（案）
- 資料4 第2回麻生区区民会議フォーラムについて

第5回麻生区区民会議

日 時 平成23年8月29日（月）

午後3時から

場 所 麻生区役所第1会議室

午後3時開会

1 開 会

武濤委員長 定刻になりましたので、ただいまより第3期第5回麻生区区民会議を開催いたします。よろしくお願いいたします。

2 議 事

武濤委員長 それでは、きょうの議事並びに資料について確認をさせていただきたいと思っております。これにつきまして、事務局のほうからよろしくお願いいたします。

事務局 それでは、配付資料の確認をさせていただきます。一番上に本日の会議の次第がございます。資料は、A4判とA3判がございますが、最初がA4判の資料1-1、その次がA3判の資料1-2、同じくA3の資料1-3、資料1-4、また、A4判になりまして、資料2-1、こちらのグラフが資料2-2になっております。しばらくその資料が続きます、またA4の縦で、資料2-3、グリーンアップ・里山ボランティア、今度はA3で、右上に資料2-4、同じくA3の資料2-5、そしてまたA4になりまして、資料3-1、区民会議フォーラムの資料、両面印刷の後ろ側が資料3-2になっておりまして、次のページが資料3-3、その後ろが資料3-4、次のページ、資料3-5、最後が資料4のA4判になっております。配付資料といたしまして、区民会議ニュース、ナンバー3、それから、フォーラムのチラシ、写真展の作品募集ということで、資料を3つつけさせていただいております。足りないもの等、ございますでしょうか。もしまた会議の中で足りないということであれば、事務局のほうにお申しつけください。どうぞよろしくお願いいたします。

武濤委員長 ありがとうございます。

調査審議課題について

(1) 地域交流・文化部会の検討経過報告及び意見交換について

武濤委員長 それでは、早速、議事に入りたいと思います。本日、調査審議課題についてということで、3つの部会からのお話になります。

まず、議事の(1) 地域交流・文化部会の検討経過報告及び意見交換について、地域交流・文化部会の竹市部会長からご報告をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

竹市委員 地域交流・文化部会の審議状況について報告させていただきます。

我々のテーマは2つでございまして、1つが「高齢者・障がい者などが暮らしやすい環境づくり」について、2つ目が「区民が主体になって進める芸術・文化のまちづくり」についてということです。1について、私、竹市から、2について、石井委員から報告させていただきます。

まず、「高齢者・障がい者などが暮らしやすい環境づくり」についてですが、資料1-1をごらんください。「課題解決に向けた方向性」ということで、ご存じのように、3月11日の大震災を契機に、震災に直結したといいますか災害時ということ意識するのか、それとも、日ごろの絆づくりということていくのかという議論がありましたが、「日ごろからの絆づくりを通じて、災害時もささえ合える関係（環境）づくりを検討していく」ということで、意見の一致を見ました。

2番目に、「具体的解決策の検討」です。我々は、関係団体にヒアリングしてきたわけですが、ヒアリング結果から出てきた課題解決策に基づき、今後、調査・審議する具体的解決策などを絞り込んで検討していくということです。その際に、課題解決に向けボランティア団体、町内会・自治会、麻生区社会福祉協議会（以下「区社協」という）、区などの担うべき役割なども整理しながら検討していくことになりました。

こういうことを踏まえて、3番目の「提案内容の検討、取りまとめ」と進めていく予定です。

それでは、具体的な解決策の検討、資料1-2をごらんください。「「ささえあい」を進める担い手へのヒアリング調査結果から出てきた課題・解決策」についてです。我々は、ここに書いてありますように、1、ささえ合い事業（協力員）、これは、区社協の取り組んでいるテーマでございしますが、ここをヒントに課題を探ってきたわけでございます。2つ目に、同じように、区社協のほうから紹介等をいただいた団体、5団体ほどありましたけれども、ボランティア団体等のヒアリング調査、それから、3番目に、町内会・自治会にヒアリングをさせていただきました。4番目に、その他（高齢者のメンタルヘルス）ということて取り上げさせていただいております。

まずは1のささえ合い事業について、主な課題として、ここに3点挙げています。1つは、町内会等各地区にこの事業を広げて、不公平感のない支援実施や組織体制づくりやノウハウを提供することが必要だと。これは区社協の考え方ですが、調査してみますと、まだ町内会、小地域で独自の取り組み実施をしているところは少ないということです。この辺が1つの課題と考えられます。

もう一つ、利用者へのPRが十分ではないのではないかということが、課題として提示されます。

さらに、ヒアリング調査の結果、利用度が非常に低いということが出ています。その原因はどこにあるのかという分析も必要ではないかということで、課題を3つ提示しています。その出された課題の解決策ということで、当然のことながら、利用した

い高齢者に、より情報が届く広報の方法はどうしたらいいのかということが1つです。それから、利用度の低調な原因について、町内会等のヒアリングから得た結論としましては、ほかに有料制度を活用している人がかなりいるということ、もう一つは、これは非常にいい模範例でしょうけれども、簡単なことは近隣の人に頼んでやっていますよということ、それから、これが一番難しい問題かと思えますけれども、他人に干渉されたくない、知られたくないという人、これは価値観の問題にも触れる問題かと思えますが、低調な原因として、主なところとしてはこの3点を挙げさせてもらっています。

同時に、区社協からいろいろ聞いたり勉強させてもらったりしていますが、今までささえ合い事業ということを一本立ててやってくるわけですが、そうではなくて、ほかの事業も一元化した区社協としての総合相談窓口というものを設置して、ささえ合い事業もその中に統合して、より有機的なつながりの中で進めたいということ、これを1つの目標と掲げて、この1年間検討して、その先実施するという姿勢ですので、そういう姿勢を見ながら、我々は検討する。今の段階で、区社協の事業にとやかく具申すとか、そういう問題ではなくて、その制度設計を見て、我々も態度を決めていきたいと思いますということになっております。

次に、2のボランティア団体ですが、グッドネーバースを初め、5団体からヒアリングしました。ここにおきましても、団体によって多少の差異はありますが、対象者からの依頼が非常に少ないという報告です。

そして、依頼が少ない原因、理由と伺いますか、既存の情報発信だけでは対象者への周知が困難ということ。要するに、対象者にとって、小さな活字であったり、一過性の回覧であったり、そういうことではなかなか必要とする人がそれを記憶することが困難だろうと、もっとほかに方法はないかということになってくるわけですが、そういう指摘がありました。

それから、いろいろな取り組みがあるわけですが、それをPRする場面が今までなかったと。PRする場面を検討していただければという課題の提案がありました。

最後に、活動の場所、人材の確保、資金問題というところが課題として出てきております。

それを踏まえて、解決策ですが、利用したい高齢者などに、より情報が届くような広報の方法を検討していくことにしました。

また、関連する部門を横断した合同キャンペーンなどを通じてPRの機会を持ちたい、提供したいということですね。

それから、活動の場所、活動資金などについての解決策について、区民会議が取り上げるのはなかなか難しいのではないかとということになっております。特に活動の場所はともかく資金の問題です。ただ、例えば助成金だと、助成金を出してもらえる機

関等がありますので、そのこのところに対応することもあるのかなと思われませんが、一般的には難しいということです。

それから、3の町内会・自治会についてですが、1つの課題として、利用者の情報を入手するのが困難だと、行政等から情報を得たいのだが、個人情報保護ということがあり難しいという意見が課題として出されておりました。

もう一つ、ヒアリングの中で、民生委員の負担が非常に重くなっているということが出ていました。

さらに、町内会の役員になかなか手がなく、人手不足という状況になっている。高齢化の進展に伴ってそういう状況が出てきています。

最後に、役員任期が短くて、新たな課題に取り組む余裕がなかなかないということです。多くの町内会で任期が1年、2年ということで、やっと町内会活動がわかるころに任期満了ということになっている。

これを踏まえた課題策として、1番として、小さな地域でのつながりを強める共助のシステムづくりを検討しています、そういうシステムをつくっていますという町会さんもありました。これは1つの参考例かと思えます。2番目として、防災訓練などの地域活動、それから、イベントを通じたつながりの強化に取り組むことを検討していますと。3番目に、民生委員の負担が非常に重くなっているので、町内会として、民生委員を支援する体制づくりを検討していますと。4番目に、地域人材の発掘方法を検討していますと。これは、1つは災害発生時の対応を通じてだとか、いろいろな行事、イベント等を通じて、その中から人材発掘、それから、人手発掘ということを考えていますということでした。

4のその他として、高齢者のメンタルヘルスということで、今後、高齢化の進展に伴い、介護生活者や単身高齢者が増加して、高齢者のメンタルヘルスが大きな問題となる。ちなみに、平成21年度の自殺者のうち、60歳以上の方が占める割合が37%と非常に高いという事実があります。これを踏まえての解決策として、コミュニティ・メンタルヘルス・ネットワークが機能するための取り組みを検討する。身近なところで早目に相談できる体制づくりが必要なのではないかという解決策です。

そして、一番右を見てください。高齢者が暮らしやすい環境づくりの解決の具体化ということで、広報活動としては、ささえ合いを必要とする高齢者、障がい者などへの情報が届く広報方法の検討、1つ例を挙げておりますけれども、市政だよりというのがありますが、その麻生区版で特別号を組んでやっていくのが1つの方法ではないかとか、そのほか、提案としましては、数例が提案されておりますので、それらを含めて検討をして結論を出していきたいと考えております。

また、先ほどのボランティア団体等から出されている各団体の取り組みをPRできる機会を検討してほしいという要望もありました。例として、区民会議のフォーラム

等の場を利用するという方法もあるかと考えています。これはこれからの検討課題です。

それから、担い手の問題です。例えば、新しいイベントを行う場合、小さな町内会が単独で行うのはなかなか難しい。ボランティア団体等と連携しての実施が考えられます。1つの例として、ヘルスマイトや合唱団など区内には様々な活動団体があります。そういうところと連携しての町内会活動もあるかと思えます。また、民生委員活動への支援体制づくりも検討しなければいけない課題です。グッドネーバースだとか、例えば介護予防のいきいきリーダーとか、いろいろな制度等がありますので、そういうものも含めて検討していきたいと。同時に、地域の人材の発掘方法も検討しなければいけない。これは先ほど述べたとおり、様々な町内会活動を通しての把握・発掘が考えられます。

次に、地域の絆づくりについて、小地域で見守りを行う制度・仕掛けの検討を進めていかなければと思っています。それから、地域活動等を通じた地域交流の場の検討、例えば防災訓練やら大掃除などの地域活動を、ただ行うだけでなく、その前後にもうちょっと交流といいますか、顔を合わせ会話ができる場に発展させるとか、いろいろな工夫があるのではないかということが言われています。それから、町内会・自治会等のささえ合いの展開を期待したいという意見などが寄せられております。

その他のところにつきまして、高齢化というところで、麻生区は特に山坂が多い交通不便地域が多くあります。そこで、コミュニティバス、9月1日から動き出すと聞いておりますが、麻生区全体としての検討課題ではないか。

もう一つ、コミュニティ・メンタルヘルス・ネットワークが機能するための取り組みを検討していくということです。

最後に、取り組みを進める上で共通した検討事項として、現在行われている事業の内容の見直しなどを検討していかなければいけない。それから、ボランティア団体、町内会・自治会、区社協、区など、その役割を整理するとともに、連携を進めて、このささえ合い事業の輪を広げていく機能を充実していく必要があるのではないかということで、こういう事項についてこれから検討し、早急に結論を出していくというのが今までの部会での結論であります。

あと、これからのスケジュールで、地域交流・文化部会のフォーラムですが、来年の2月か3月ごろを予定して、具体的な事項について部会で検討して決めていきたいと考えているところです。

私からの説明は以上です。欠けている点等ありましたら、委員の皆さんから補充説明していただければありがたいです。

それから、引き続き、「区民が主体となって進める芸術・文化のまちづくり」についての報告でございます。これは石井委員からお願いします。

石井委員 前回会議で、ヒアリングに至るまではご報告しましたが、現在の状況をご説明させていただきます。

ヒアリング状況で、実施済みというのが6つ、今後実施予定が、9月2日の区民祭、9月6日のあさお福祉まつりという形でまとめさせていただいて、中身を分析して、提言の内容を検討して取りまとめを行うという計画でおります。

資料1-3で、今までヒアリングさせていただきました結果の一部抜粋という形でご報告させていただきます。

全部で8個のうちの6個が終わっておりまして、上のほうから簡単にご説明してまいります。

まず1番が麻生音楽祭、これは6月から毎年行われておりまして、25年の歴史を持つところですが、これについては実行委員会方式という形になっておりまして、企画、準備、運営もすべて区民がかかわって、ボランティアの育成も実施されているという位置づけで、小・中学校の先生方や、今年からは昭和音大のジャズが加わったという形の活動をされております。問題点として、市民館の使用回数の制限とか、日程調整等の困難さが指摘されております。麻生区というエリアのメリット、デメリットについてのところは、それぞれの感想もありましたので、また活用させていただいて、どちらかという、次の麻生区（市）への要望、しんゆり芸術のまちづくりのアイデアというところで幾つか共通点も出てきましたので、ご報告させていただきます。

麻生音楽祭も、参加者を募るために広報活動をされているのですが、年々苦勞されているということで、ここのタイミングの工夫等が問題として検討になっています。先ほどの練習会場が確保しにくいということが課題です。また、麻生フィルによる映画祭とのタイアップなど、他のイベントとの連携を考えてPRもしていきたいというのが1つ提案されております。

2番目がKAWASAKI しんゆり映画祭、これもこの間、野外上映会、ドラえもんが終わったところなのですが、平成14年から始まっていて、これは主体が、当初は実行委員会だったのですが、KAWASAKI アーツ、NPOの法人により実施されております。ここは市と区からも助成金が一部、野外上映会に出ています、運営自体はボランティアの方が中心になっておられ、日本映画大学の関係者の方々も協力されて続けられています。ここにつきましては、アートセンターができてから、今後、映画祭とどう補完し合っていくかということが1つの課題になっております。

また、あわせて、その下のしんゆり芸術祭のところでも、映像部分が取り上げられています。今後、ここの位置づけが課題となってきますが、そもそもこの映画祭自体がボランティア中心でスタートしたという市民運動的なこともありまして、映画祭とアートセンターとの違いというのは、今後、ワークショップ等の扱いも含めた対応を

考えていきたいというお話をされています。

市への要望の中で出てきているのが、駅前の景観形成等の規制があつて、PRがうまくできないということがありまして、一部見直しを検討してもらいたいということです。また、映画祭も他のイベントと連携して、広報をPRしていきたいという提案がされています。

3番目はしんゆり芸術祭、アルテリッカしんゆりで、ゴールデンウィーク期間に行われています。ここも最初は市役所が協力されていますが、今は実行委員会で、川崎市文化財団、アートセンターが中心に行われる形に変わってきています。出演者も川崎市、あるいは区の関連の方々を中心に考えられているということと、運営についてはボランティアの方がかかわっておられます。ここについては、トップレベルの芸術の提供をして、チケット代から謝礼、謝金を払うというシステムを実現していることが報告されています。また、ボランティアの育成ということが非常に課題になっております。芸術のまちづくりの支援に対しては、芸術のまちづくりのコンセプト等をしっかり築いて、継続性と財政面の担保が必要ということで、ここも協賛金等を集めながら、この地区だけではなくて、小田急沿線、あるいは日本一を目指すという目標を掲げて進めたいと述べられております。

4番目は、Kirara@アートしんゆりで、駅前のイルミネーションに合わせいろいろなイベントを開催されているものです。これは平成19年から、ことしで5年目になるもので、これも実行委員会方式ですが、この予算は協賛金で実施されているところが、委託事業ではなくて、民間主体で行われているところが、ほかのものとは違うところです。昭和音大、藤原歌劇団、千代ヶ丘小学校の合唱団等イベントが協力して参加されています。ここの要望のほうも、景観形成に関する検討をしていただきたいというのと、区の中の文化担当者、あるいは窓口を一本化してもらえないだろうかという提言が出ています。あと、今後、町内会・自治会等の連携をもう少し模索して、検討する必要があるだろうと言われております。

続きまして、5番目がしんゆり・オリーブまつり、これは新しく3年前からスタートしたもので、これも実行委員会方式です。協賛金を募って行われながら、ここは芸術家の出展によるアート市を開催されています。これについては、まだオリーブまつり自体が余り認知されていないのですが、しんゆり映画祭、区民まつり、昭和音大の学園祭と連携した広報を行いながら、地域活性化につなげたいと述べられています。

6番目があさお芸術のまちコンサート、これは通年なのですが、ここは実行委員会方式で、平成12年から進められていまして、最初はロビーコンサートからスタートされたということですが、これは区からの委託費で進めておられます。ここの中でも課題として出されているのが、練習場所の不足等です。あと、映画祭とアートセンターとの連携を模索されながら、音楽のまち麻生の発展に向けていきたいということで、

ここでも町内会との連携が必要という提言も出ております。

7番、8番につきましては、次回、ご報告できるようにしたいと思っております。

簡単ですが、ヒアリングの結果とさせていただきます。

武濤委員長 ありがとうございます。

竹市部会長、石井委員のほうからご説明をしていただきました。

地域交流・文化部会ですけれども、2つの柱がございます。まず、「高齢者・障がい者などが暮らしやすい環境づくり」についてということで、資料1-2のところ、今、一番右側の解決策の具体化のところまで話が進められてきて、これをこれからもう少し深く絞り込む、あるいは検討しながら審議を進めていくということです。こちらについて何か質問、ご意見はございますでしょうか。

<委員から特になし>

続きまして、資料1-3はもう一つの柱であります、「区民が主体となって進める芸術・文化のまちづくり」、こちらは、今全部で8つのヒアリング対象のところの6つが終了して、あと2つが9月の月上旬に実施予定であるということでございます。今のヒアリングの経過報告等につきまして、ご質問、あるいはご意見等ございますでしょうか。

<委員から特になし>

それでは、もう一つ、次の1-4をごらんください。先ほど竹市部会長のほうからお話がありましたが、これは地域交流・文化部会の、今までとこれからのスケジュールとなっております。一番上が区民会議のスケジュールです。真ん中が地域交流・文化部会でございます。この後、9月から原則として月1回ほど開催して、2月または3月あたりの区民会議フォーラムについての検討も含めた形で、今の2本の柱と提言等について検討していくという流れでございます。この流れ、それから、今までの2つの柱につきましてのご質問、あるいはご意見はございますでしょうか。

<委員から特になし>

それでは、議事の1番目、地域交流・文化部会の検討経過報告及び意見交換についてですが、ご承認いただけますでしょうか。

<委員、承認>

——それでは、承認いただきました。ありがとうございます。

(2) 環境・緑化部会の検討経過報告及び意見交換について

武濤委員長 続きまして、議事の(2)環境・緑化部会の検討経過報告及び意見交換に入ります。こちらは、環境・緑化部会の福田部会長からご報告をお願いいたします。

福田委員 環境・緑化部会のほうから調査審議状況をご報告させていただきます。

お手元の資料2-1をごらんいただきたいと思います。環境・緑化部会もテーマが

2つございまして、1つは、「循環型のまち・生ごみリサイクル」についてというテーマ、もう一つは、麻生区独自の緑を生かした「グリーンアップ・里山ボランティア」についてという2つの大きなテーマで取り組みを行ってまいりました。

それでは、まず1番の「循環型のまち・生ごみリサイクル」についての調査審議状況をご報告させていただきます。

麻生区生ごみアンケートですが、実際の生ごみのリサイクル状況、区民の皆様の生ごみのリサイクルに対する意識、生ごみリサイクルに取り組まれている皆様のご意見を把握するためにアンケート調査を実施させていただきました。ここにいらっしゃる委員の皆様方のお力を十分にお借りして、たくさんの方たちにご協力いただきましたことに、この場をおかりして御礼申し上げたいと思います。ありがとうございます。おかげさまで、回収の総枚数が1,165枚となりまして、この集計の結果を中間報告という形でまとめさせていただいている最中です。

それでは、集計結果の中間報告のご説明をさせていただきます。お手元の資料2-2を開いていただけますでしょうか。アンケートは、5月25日から7月31日までの間に、麻生区在住者を対象として実施させていただきました。回収は50グループ。まだ今でも少しずつ回収をさせていただいている状況ですが、この時点で集計したものに関しましては1,165人、回収率は41.7%となっております。

下の円グラフに区分で分けてあるのですが、町内会・自治会の皆様にお配りしたものが全体の約39%ご回答いただいている。区分2というのは、区民会議の委員の皆様もさまざまな団体に所属されている方が多いかと思いますが、お声かけをさせていただいて、ご協力をいただいた市民活動団体、グループとなっております。区分3というのは、できるだけ広く一般の方たちを対象として、スーパーの店頭とか、区役所のロビーをおかりしまして、実際に対面でアンケートを実施させていただきました。区分4といたしますのが、ホームページからダウンロードしていただいたり、自らアンケートを提出いただいた方となります。区分5といたしますのは、委員の方々から直接依頼をされた、その他という区分にさせていただいております。

資料のほうを細かく説明いたしますと膨大な時間になってしまいますので、まず、1枚めくっていただきまして、裏面のA1をごらんいただけますでしょうか。生ごみ減量について工夫していますかという設問で、自分たちが想定していたよりも、皆様、余分なものは買わなかったり、エコクッキングですとか、できるだけ分量を減らすと。生ごみをリサイクルするというよりも、まず無駄なものを出さない、ごみを減らすということで、またちょっと違った趣旨なのですが、皆さんとても工夫がされているということがわかりました。

その下のほうに行きますと、円グラフですが、生ごみを実際にリサイクルしている人は麻生区全体で23%となっているのですが、リサイクル以外に実際に分量を減らし

てごみを出さないという皆さんの取り組みを改めて知ることができました。

先ほどご説明した区分による特徴が多々ありますが、例えば区分4、自ら区役所にアンケートを提出していただいたり、ダウンロードしたものをこちらに郵送していただいたという方に関しては、リサイクル率はとても高く、64%です。ですから、わざわざアンケートを提出してくださる方は、ほとんどもう既に生ごみリサイクルに協力していただいているというか、取り組まれている方たちということで、実際にアンケートをとって、広く一般の区民の方たちの実情というのは、区分3というところを見ていただければ、大体の割合が出るかなと思います。スーパーの店頭ですとか、区役所のロビーでアンケートを実施したものなのですが、リサイクル率が大体12%、10人にお1人ぐらいが、生ごみリサイクル知っていますよ、やっていますよという方でした。

また、A3、生ごみの堆肥を試みたいですか、または堆肥化を続けるためにはどんな条件があればできそうですかという設問で、こちらは、まだ生ごみリサイクルに取り組まれていない方たちに、どのようにして生ごみリサイクルに興味を持って取り組んでいただくかというところを主眼としているアンケートの設問だったのですが、皆さん、方法が簡単なら、におわないなら、費用がかからないならという形で、高い割合でご回答をいただいております。実際には、このアンケートで何を知りたいかというところ、どうやって生ごみリサイクルに協力していただく仲間をふやしていくか、区民の皆さんに知っていただくかというところでしたので、このところがとても大切なご意見になると思っております。

右側のほうに、細かく自由記述欄、その他というところで、堆肥化したくない理由ですとか、その他自由にご意見をお聞かせくださいというところで書いていただいた部分が多々あるのですが、この辺の内容をクリアできるものをどうやって準備していくか、どのようにご説明していくかというところが、今後の生ごみリサイクルを普及させるきっかけづくりの大きな課題だと思います。自由記述欄のほうは、いただいたご意見の大部分を載せているという形ですので、実際には左側の棒グラフの、「方法が簡単なら」は51%の方たちが回答しているという部分が、主な皆様のご意見ととっていただければと思います。

下のページに移りまして、Bの1番、実際に、現在生ごみリサイクルをされている方に、方法をお聞きしましたところ、麻生区はもともと緑豊かな土地ですし、まだまだ農家さんも残られている地域柄ですので、直接畑に埋めているとか、こんなリサイクルという言葉ができる前から、先代の皆様の知恵として、肥料として活用しているということがおありになったということで、約半分の方が直接お庭に埋めたり、土に返したり、そのまま肥料として使っているというご回答をいただきました。最近、ダンボールコンポストですとか、電動生ごみ処理機なんかもたくさん普及してきている

のですが、その辺につきましても、たくさんご意見がふえて、いろいろな方法があることが知られてきていることがわかりました。

もう1枚めくっていただいて、B3の自由記述等、多々あるもので、後々、ご意見をいただく時間に、気になる点があれば、ぜひご質問をしていただければと思います。特徴的なのは、虫とにおいをクリアできれば、たくさんの方が応援してくれるのだなということです。

以上で、こちらのアンケートの中間報告は締めさせていただきます。

資料2-1に戻りまして、(3)集計結果の分析で、今ご説明いたしました生ごみアンケート、区民の多くの皆様にご協力いただきましたので、これをきちっと分析して、課題解決に向けた取り組みの検討をさせていただきます。

堆肥の「もらいます」・「あげます」のモデル事業を計画しているのですが、先ほどのアンケートの中の報告で少し足りなかったかと思いますが、今実際に生ごみリサイクルに取り組まれている方は、大部分の方が自分で使うので、リサイクルに取り組まれている。ですから、生ごみリサイクルは使うあてがある方しか今はされていないという結果になっていますので、使う場所はないけれども、生ごみリサイクルをしたいという活動に広げるモデル事業へとこの分析を進めて、つなげていきたいと考えています。というところが、今の生ごみアンケートの現在の状況となります。

それでは、区民会議フォーラムについてご説明させていただきます。

こちらのほうは、後ほど企画部会からフォーラムの説明はあるかと思いますが、環境・緑化部会として、企画部会への企画の提示をさせていただくために準備を進めてまいりました。先日の企画部会において実施概要については了承いただきましたので、これで報告とさせていただきます。

次に、大卒の2番の「グリーンアップ・里山ボランティア」についてご説明させていただきます。

こちらは、麻生区の緑の保全活動に、現在でもさまざまな団体が行われているのですが、まだ麻生区には手のついていない緑地がたくさんあるということで、新しい今までにない組織づくり、継続していける組織づくりを目指すということで、当初からスタートしております。組織づくりに関しましては、今取り組んでいただいている緑の団体ということもあるのですが、区民、町内会・自治会、今活動されている団体のメンバー、また、麻生区自体が協働した運営として、できるだけ今後につなげていける、継続するための発展を目指していこうと考えております。区内の緑地の実態を把握し、手入れが必要な緑地の保全を実施するためのボランティアを募集し、モデル事業を2回ほど実施したい。その結果を踏まえて、今後、無理なく継続していける運営を目指していくというふうに、運営ができる組織の提言をしていきたいと考えております。

現在まで、公園緑地協会のさとやま研修会に、委員の方たちと一緒に参加いただき、里山活動、緑の保全活動というのはどんなものかを最初に体験させていただきました。また、7月には、麻生区道路公園センターより、現在の麻生区内の緑の現状を勉強会形式で開かせていただきました。

2-3の4番のところ、実施するモデル事業の候補地を選ぶために、条件、着眼点を設定しました。特定の活動団体がまだできていない市の保有する緑地、2番は、傾斜地が少なく、素人の方でも比較的活動しやすい場所、3番は、区民の方などの利用があり、公共性が高い場所、4番、交通アクセスなどが比較的よい場所という形で、モデル事業として成功しやすい着眼点を設定いたしました。特に1番と3番、川崎市が保有していて手つかずになっているところ、区民の方たちが日常的に利用する公共性の高い場所、この2つを重点的に事業の実施候補地の下見をさせていただきました。

下見の結果ということで、資料2-4をごらんいただけますでしょうか。道路公園センターの協力で、実際に4カ所選んでいただきまして、下見を行ってまいりました。こちらの左側の1、2、3、4と4カ所に番号がついているのですけれども、こちらは上から下見の結果の優先順位となります。

それでは、4番目の下のほうから説明させていただきます。

高石4丁目、最初に、トイレも近くにあるということと、駅から近いというところでご紹介をいただいたのですが、こちらは住宅地の中にある緑地で、現在もフェンスで囲ってあって、今後も開放する予定がない。確かに手を入れて、その場では地域の方も巻き込めて、緑の活動としてできても、今後、地域に開放されることもないですし、少し事業の趣旨とはずれてしまうということで、今回のところ、優先順位が下がってしまいました。とてもいい場所で、モデル事業の場所としてはいい規模だったのですが。

上に上がりまして、3番の栗木台5丁目周辺というところで、こちらは営農団地といいまして、黒川のレーダーが立っている塔があるのですが、その下のところで、プロの農家が今でも農業を営まれている場所のわきにある公園です。十数年以上にわたりと書いてあるのですが、17年間、建設されてから全く手がついていないという担当課長のお話でしたので、図面上、ここですと言われた入り口のところも、どこが入り口なのかわからないぐらいやぶでして、モデル事業として、一般の方たちを募集するには危険ですし、ボリュームが余りにも大き過ぎるということで、それこそ、今やられている緑のプロの方たちへぜひつなげていければと思います。ということで、やることはたくさんあるのですが、1回でモデル事業としてまとめるには、ちょっと規模が大き過ぎるというところ です。

2番目、ここからはぜひ取り組みたいというところで、今まとめているところで

す。栗木緑地、栗木2丁目から3丁目周辺、こちらは、桐光学園の裏側から黒川のほうへ続く、黒川のマイコンシティのわきを通る尾根道で、緑道になっている部分です。町田市とのちょうど境ですが、柿生の峰をめぐる散歩道と川崎市のパンフレットに載っているととてもいいところでした、今回下見させていただいた4カ所で、一番一般の方たちが広く利用されている場所です。近隣の学校の生徒、桐光学園の生徒が、運動部のマラソンコースとして使っていたり、犬の散歩の方ですとか、子どもたちの遊び場ですとか、そういう形で広く利用されているところです。

今、道路部分、尾根道部分に関しましては、地元の有志の方と思われる方が手を入れてくださっているような形跡が多々ありまして、階段付近の一部ですとか、通路にはみ出ている一部のところを枝打ちがしてあるというところで、道自体、通ることには不自由はないのですが、少し斜面に目を移しますと、全く手が入れられていない、伸び放題で、反対側の尾根道ではないほうには竹が伸び過ぎて倒れかかっていたりという形です。こちらも規模自体は余りにも大き過ぎて、モデル事業を1回したからといって、すべてがうまくいくということではありませんが、それをきっかけとして、今後、地元の方たちにご協力をいただいて続けていくということには、とても可能性のある、すばらしい緑地ですので、こちらはぜひということで載せさせていただきました。地元の方のお話ですと、草が伸び放題なことで、粗大ごみですとか、不法投棄禁止の看板が立っている前に物の見事に不法投棄されているというところが何か所かありまして、下見したときにも、地元の農家の方が、何とかしてくれということで、課長にいろいろと情報を入れていたというところがございました。ぜひ実施させていただきたいと思っているところでございます。

上のほうに行きまして、1番、月読緑の保全地域といいまして、月読神社の境内の一部となるのですが、こちらは、地元の農家の方の土地ですとか、神社の土地ですとか、市の土地と少し内容が分かれていますのですが、川崎市が緑を保全するために持っている土地が、残念ながら、放置されているような状況です。せっかく地元の皆様が散歩道として使ったり、神社をめぐられる方たちが通る道なのですが、そのところの木くい、ロープが倒れていたり、倒れたロープがそのまま放置されていたりと、街灯もついているのですが、剪定、枝打ちをしていないので、少し薄暗く、せっかくの景観がもったいないことになっています。逆に地元の農家さんの道ですとか、そちらの側はすごくきれいに整備してあるという形ですので、こちらは、規模はちょっと小さいのですが、モデル事業として取り組むには、1回のモデル事業で、しかも、地元の柿生の里散歩道を整備しましたというまとめを出すときにも、とてもいい規模ということで、こちらは無理なくモデル事業の候補地として取り組みさせていただくよう、優先順位を上げさせていただきました。

ですから、2回の実施で言いますと、1回目のちょうどいい小さ目の規模の月読緑

の保全地域のほうで、委員の皆様も、我々も含めて、ノウハウ、やり方を少し体験いたしまして、2回目のちょっと大規模な栗木緑地では、少し経験した上で、習熟した上で取り組んでいければと。その上で、モデル事業として完結できる小さ目の規模、また、これからが一番重要な大きな規模というところで、その2つをあわせて提言へとまとめていければ、新しい里山の活動で、麻生区独自のものがつくれるかと考えております。

というのが、今、環境・緑化部会のほうでまとめているところなのですが、こちらはようやく計画のほうを練り上げさせていただいた段階です。ですから、一番大事な地元の皆様へのごあいさつですとか、協力いただけるか、これからが一番肝心なところですので、これをもって、地元の方たちにご説明に伺って、ぜひ調整を図っていきたいと考えております。

里山ボランティアの活動の実施時期につきましては、11月と12月の2回を予定しています。

環境・緑化部会のほうからは、資料2-5で今後のスケジュールをご説明させていただいて、終わりにしたいと思います。

循環型のまち・生ごみリサイクルにつきましては、9月のところを見ていただきますと、この後、ご報告があります、9月25日に区民会議フォーラムを予定しております。こちらのほうに、環境・緑化部会の生ごみリサイクルの取り組みの大きな趣旨ですとか、まとめも入りますので、この辺を中心として、今後のモデル事業へと、堆肥の回収、配付につなげていくよう予定しております。

グリーンアップ・里山ボランティアにつきましては、今、ご報告いたしましたとおり、計画の承認をいただいてからが地元町内会、関係団体との調整期間というところで、ここに一番集中して、実施までに向けた調整を図りたいと考えております。

環境・緑化部会の現状の報告は以上となります。

フォーラムのチラシが資料としてついておりますので、ぜひごらんをいただいて、ご質問があればいただければと思います。

武濤委員長 福田部会長、ありがとうございました。今、お話のありましたように、環境・緑化部会も、今、2つの柱で活動をしていただいております。まず、循環型のまち・生ごみリサイクルについてというところでは、生ごみアンケート、これは、1,165枚と大変多くの枚数が回収されておまして、この中間報告、それから、その分析と、フォーラムでのテーマにおけるいろいろな活動がありまして、モデル事業をこれから行っていくということですが、ここにつきまして、アンケートの分析のところ、あるいは循環型のまち・生ごみリサイクルという柱の部分について、ご質問、あるいはご意見等ございますでしょうか。

田中委員 このアンケートは中間報告ということなのですが、フォーラムで最終報告にな

るのではないかと思います。この中間報告を拝見しますと、方法が簡単ならとか、時間がかからなければといったような回答が結構多いのですが、何となく私が受けとめた感じでは、生ごみリサイクルをやる意味といいですか、やる方自身が、どういうメリットがあるのかというところが余りよく普及していないというか、理解されていないというか、認識されていなくて、こういうアンケート結果になっているような印象を受けます。要するに、生ごみリサイクルに、堆肥化に大きなメリットがあるのであれば、多少方法が簡単でなくても、やるという方が多いだろうと思うのですが、必ずしもそうでもないということは、そういう事情があるからではないのかと私には読めるわけです。最終報告の中にどういうふうに入れていただけるかわかりませんが、そのあたりの部分については、ぜひ触れていただきたいというお願いというか、提案です。

武濤委員長 今、田中委員からは、特に最終報告も含めて、生ごみリサイクルをすることのメリットがきちっと伝わるようにまとめていってほしいというご要望です。よろしいですか。

福田委員 ぜひ入れさせていただきたいと思います。

武濤委員長 入れていただけるということです。

ほかにご質問、ご意見はございますでしょうか。

それでは、もう一つの柱のグリーンアップ・里山ボランティアについて、これも今、非常に詳しくご説明いただいて、実際に幾つか下見をされて、これから、2つ候補、地元との交渉等を含めて行っていくと。そういったものを含めて、モデル事業をできるだけ2本実施して、その結果を検証した上で、提言にまとめていきたいということですが、これにつきましてご質問、ご意見はございますでしょうか。

鴨志田委員 栗木緑地、桐光学園の上の2番目のところ、これからここをメインで検討されるということで、1つ提案なのですが、実は、こっち側がちょうど尾根道で、すごくいいところなのです。すぐ右が町田市になっていて、今の考えだと、川崎側だけきれいになるわけですね。こちらの川崎のほうだけきれいにするより、向こうのボランティアとか、そういう方たちと協働してやると、あの山自体、尾根がすごくきれいになるのではないかとと思うので、そういうところも調べられたらいいかなと。山は川崎市だけで1つのものではないですから。半分だけきれいになってしまいます。やっぱり山は山ですから、そういう境を取り払って考えられたら、もっとよくなるかなと思ったので、ご提案です。

武濤委員長 ありがとうございます。今、非常に規模の大きなところであるというお話がありました。そういう意味で、町田市と隣接しているということですね。そういったところとの連携、あるいは協働も含めた点で調査、モデル事業を行ってほしいということです。

土井委員 わかればですが、候補に挙がっている1番と2番の、市有地の面積と、参加者の募集の人数をおおよそでいいですので、教えていただきたい。

福田委員 一番鋭いところに質問をいただきまして。面積というのは、資料に載せられるところを準備していなかったもので、申しわけありません。募集の規模につきまして、これは地元の皆様と調整の上で決めさせていただこうかと。地元の方たちのお祭りの日ですとか、大きな予定はお聞きしなければいけないですし、どうしてもスケジュール的となったときに、こちら側で、こうですから、こうしてくださいというのには、余りにも地元の方たちに失礼なことですので、大枠で大体これぐらいというのはもちろん検討しているのですが、それも含めて、これから調整をさせていただこうかと思えます。下見のときに相談させていただきましたのは、月読の緑地のほうでしたら、約20名ぐらいが妥当ではないかという規模でした。栗木緑地のほうは、幾らいても構わないのですが、里山活動は安全性も大事ですので、実際にリーダーをある程度配置しないとイケません。我々区民会議が主催するのでしたら、公園緑地協会から、30名ぐらいが妥当ではないかというアドバイスはいただいております。ただ、これはまだ決めておりませんので、今後進めていきたいと思っております。

田中委員 提言につなげていくとおっしゃっていますが、提言につなげていくためには、インパクトのあるものを出していただくということがすごく大事だと思います。であれば、グリーンアップ・里山ボランティアの目的というものも、組織し、活動を実施するということでもいいのかどうか、その目的のところをもっと明確にさせていただいて、区民会議でこういう大きなインパクトのあることをやったのだという結果が残せるようにしていただけたら、大変よろしいのではないかと思います。

武濤委員長 ありがとうございます。目的を明確に、特に提言の取りまとめのところで、インパクトのあるものにしてほしいということです。

ほかにご意見、ご質問等ございますでしょうか。

それでは、今の環境・緑化部会、審議状況、経過報告及び意見交換につきまして、ご承認いただけますでしょうか。

<委員、承認>

——ありがとうございます。それでは、ご承認いただきました。

(3) 企画部会の検討経過報告及び意見交換について

武濤委員長 次に、議事の3番目に入りたいと思います。

(3) 企画部会の検討経過報告及び意見交換についてです。こちらにつきまして、企画部会の金光部会長よりご報告をお願いいたします。

金光委員 私のほうから報告しますのは、麻生区区民会議フォーラムについてでございます。このフォーラムにつきましては、環境・緑化部会のほうで骨格を検討していただ

きまして、それを企画部会のほうに提出いただいて、企画部会で検討し、こういう形で提案するような形にいたしましたので、その部分について皆様方にご報告申し上げたいと思います。

この区民フォーラムにつきましては、区民会議として実施するということでございます。ここに書かれてありますとおり、第3期区民会議の取り組み課題の一つである「循環型のまち・生ごみリサイクル」について、区民会議での調査・審議経過などを区民に対し報告、周知する機会とする。また、区民だれもが身近なエコ活動としてごみ減量に向けた取り組みについて区民の方が考え、行動するきっかけとなるようにするという趣旨で、このフォーラムを実施したいと考えております。

テーマにつきましては、「循環型のまち・生ごみリサイクル～生ごみ先生・いのちの循環と食育を語る～」というタイトルでフォーラムを実施するということになりました。

実施時期につきましては、平成23年9月25日（日曜日）13時30分から16時30分を予定しております。

場所につきましては、区民会議の第1・2会議室で行う予定です。この場所でございます。ここは150人ぐらいいは入るという予定になっております。

実施内容につきましては、フォーラム以外の、その他の取り組みとして、第1番に、生ごみ堆肥や肥料でつくった花や野菜の写真展を同時に開催する予定にしております。それに関しましては、お手元にお配りしてあります資料で、これはチラシとして区民の方々に広報として配る予定にしております。写真を9月9日までに提出していただき、9月12日から9月25日まで区役所のロビーで展示する予定です。実際に生ごみリサイクルを実施している方で、ぜひこの写真を撮って展示したいという方がおりましたら、積極的に協力していただければと思います。また、近所の方、あるいはお友達の中で、そういうことをしてみたいという方がおりましたら、ぜひ皆様方のほうから宣伝して、そういう方を募っていただければ大変助かりますので、ひとつご協力のほどお願い申し上げます。

第2番目に、地元産の野菜等の直売会を実施する予定にしております。これはJAセレサ川崎、はぐるま工房の協力を得て実施する予定です。

3番目に、展示ブースとして、生ごみ相談会をやります。ここには、生ごみのリサイクルのための機材等を展示して、こんなものがありますよということをごこへ来た人たちにご紹介しようということでございます。それから、川崎市のごみ減量の取り組みに関する資料展示等をして、市がどういう減量に取り組んでいるかということをご皆さん方に宣伝し、理解していただこうと考えています。それから、JAセレサ川崎のパネル展示、区民会議に関する資料展示、今、区民会議ではこんなことをしていますということを宣伝して、皆さん方に区民会議というものの意義を理解していただ

うという形です。エコのまち麻生、これは小学校のほうに配りました。幾つかの学校で先生にお聞きしましたら、非常に有意義な資料だということで、既に教材として使われています。

このフォーラムでは、吉田俊道先生をお招きして、講演していただくということですので。先生の略歴につきましては、ここへ書かれておりますので、後ほどお読みいただければと思います。

次に、区民会議フォーラムのプログラムでございます。プログラムの内容ですが、12時に集合していただいて、会場づくりを行います。全員の方、12時までにここにお集まりいただいて、会場づくりをお手伝いいただければと思います。それと、事例発表会の打ち合わせ、ブースの準備、あるいは野菜直売の方々との打ち合わせ等もあわせて関係者がやる予定にしております。

それから、フォーラムの開演は13時30分、区民会議委員長のごあいさつ、区長のごあいさつをいただき、その後、13時40分から、区民会議についての簡単なご報告をする予定にしております。それと、我々のほうで、横浜市環境局を訪問いたしまして、横浜市でどのような形での減量対策をやっているかを聞いてまいりました。それに関してこの場をかりて簡単に報告していただきたいと思っております。

13時50分から、川崎市の生ごみの現状とその取り組みについてということで、川崎市環境局減量推進課から説明をしていただく予定にしております。14時から実際に吉田先生に講演をしていただくこととなります。約1時間20分のお話をさせていただくこととなります。

15時20分から約10分間休憩をいたします。そして、15時30分から、各団体の方々に、それぞれどういう取り組みをしているか、事例報告をしていただく予定にしております。事例報告が終わった後で、吉田先生から、それぞれの事例報告された方々に対しての講評、ディスカッションをしていただく予定にしております。

これが区民会議フォーラムの大体のスケジュール、プログラムでございます。

資料3-3ですが、これは区民会議フォーラムを実施するに当たっての役割分担でございます。フォーラムを実施するに当たって、区民会議の委員の方々全員参加という形をとらせていただきたいと思っております。それと同時に、それぞれの方々に協力をお願いして、こういう形で役割分担を決めさせていただきましたので、よろしくお願いたします。

まず、会場設営については、会場で大高委員に会場の責任者としてやっていただきたいと思っております。展示ブースでは、天野委員と勝田委員をお願いいたします。直売に関しては梶委員をお願いして、実際に直売に当たる方々との調整をしていただくこととなります。受付については2名の方に協力をお願いいたします。植木委員と魚本委員よろしくお願申し上げます。さらに東川委員にも補助をお願いしたいと思いま

す。会場の案内は3名で、菅原委員、田中委員、柳島委員にお願いしたいと思えます。さらに、飯塚委員、高瀬委員、山崎委員にも会場案内などの形でお手伝いをしていただきたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

司会は私がやる形になります。あいさつを2名の方にお願いしますが、委員長の武濤委員長は、ごあいさつをよろしくお願い申し上げます。それと、区長にごあいさつをいただく予定にしております。区民会議の会議報告については、先ほどのアンケートの報告を天野委員にお願いし、横浜での意見聴取したものを東川委員から報告していただく形にしてあります。会場で映写をする形になりますけれども、パワーポイントの係として事務局にお願いする予定にしております。

事例発表は、1人ずつ時間を設定いたします。10分ぐらいの時間を設定して、ベルを鳴らす形にいたします。ベルが鳴ったら、その時点で打ち切りという形、時間が限られていますので、これをしませんでした、だらだらと時間が伸びる可能性がありますので、時間厳守としてこれを採用させていただきます。

それから、会場でいろいろと質問の場を設けますので、マイクを質問者に対して持っていく係として、大高委員と福田委員にその役をお願いしたいと考えております。

以上、役割分担を決めさせていただきました。

事例発表者の対応として、環境・緑化部会長であります福田委員にその役をお願いしたいと思います。

会場の中で区民会議のブースを設置するのですが、その対応を山崎委員にお願いしたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。こちらのほうで勝手に名前を入れさせていただきましたが、ひとつご了解をいただければと思います。

資料3-4にアンケートが入っております。これは私のほうから、こういうアンケートを配っていますので、用紙を受付のところで提出してお帰りくださいという案内を言いますが、受付のところで、帰る方々にアンケートをお願いしますということを一言言って、なるべく回収するようにしていただければと思います。内容はここに書かれているようなことですので、後でお読みいただければと思います。

資料3-5は、会場設営の略図でございます。こういう形の設定の仕方をいたします。後ろの方は机を取り外して、いすだけにします。この机を外に出して、いすを並べるといふ形の作業が入りますので、皆さん方、なるべくお手伝いしていただければ、大変助かります。

フォーラムについてはこのようになります。

フォーラムに関してのPRでございますが、今回出た広報紙の裏表紙のところに、この案内が載っております。これは各町内会・自治会で回覧してもらうような形をとっております。これでフォーラムの実施を区民の方々に周知徹底を図るということで考えております。それ以外にチラシは、区役所に置いたり、市民館などそれぞれのと

ころに置いて、いろいろな方々に目に触れるような形でPRしていきたいと考えております。それぞれお願いした箇所がございますので、ご協力のほどお願いしたいと思います。

第2回の区民会議フォーラムについて、資料4になりますが、趣旨として、第3期区民会議の取り組み課題と課題解決に向けた調査・審議経過を区民に対して報告を行い、広く区民の方に区民会議を知ってもらう機会とする。あわせて、フォーラムで報告した内容及び区民意見を集約して、第3期区民会議として提言につなげていくという趣旨で、第2回のフォーラムを実施する予定にしております。

日時としてはまだ決定していませんが、予定として、ここに書かれてありますように、2月18日、2月25日、3月3日、3月4日、3月10日、3月11日のうち半日程度をその日に充てたいという予定です。この日はこの場所をそういう意味で確保するというので、これだけの日にちを挙げております。

3番目の企画内容としては、地域交流・文化部会で企画検討した内容を企画部会中心で調整して、実施する形になると思います。①として、講演、展示、各部会からの活動報告などの開催内容にしたい。役割分担をはっきり決めていく。広報資料を作成するという形で実施していく予定にしています。

これに関する広報は、市政だよりの2月1日号麻生区版、区民会議ニュースやチラシをもってPRを図る。いろいろな報道機関がございますが、そこへ案内の投げ込みを行って、PR活動をしていく予定にしております。一般紙とか、タウンニュース等を積極的に利用したいということを考えております。

開催に向けたスケジュールですが、11月までに実施の内容を決定して、1月までに関係機関との調整を行う。1月から2月に第6回区民会議を開き、当日の役割分担を決め、そして、広報活動として区民会議ニュースを発行し、チラシを配布して、開催を案内する形にしております。

こういうことで、第2回目の区民会議フォーラムを実施する予定にしておりますので、地域交流・文化部会の方々は、これに関しての骨格づくりを協力していただければと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

私のほうからは以上でございます。

武濤委員長 金光部会長、どうもありがとうございました。企画部会のほうから、9月に行われます区民会議フォーラムについては、非常に詳細にわたったご報告、それから、その次に行われます第2回のフォーラムについては、概略をご報告いただきました。

それでは、9月の区民会議フォーラムについて何かご質問、あるいはご意見等ございますでしょうか。

この区民会議ニュースは、もう配布されて、各自治会のほうにちょうど今配られて

いるような感じですか。

事務局 現在、業者さんをお願いしまして、町内会・自治会のほうに配布をしています。

今後、各町内会・自治会のほうで順次回覧をしていただく形になっています。

武濤委員長 あと1カ月足らずということになりますので、できるだけたくさんの方々にご参加いただけるようにしたいという感じですね。

天野副委員長 先ほどのアンケート報告で、1,165枚回収があったのですが、生ごみフォーラムをしますので、そのお知らせが必要な方はファクス番号または住所をお書きくださいという項目が下にありまして、記名してくださった方、ファクス番号を書いてくださった方が200名、ファクスでなく住所を書いてくださった方が100名で、合計300名の方が書いてくださいました。アンケートご協力ありがとうございます、お知らせをお送りしますという形でファクスいたします。あわせてご報告します。

武濤委員長 1,165名のうち合計で300名の方がそういうふうに出してくださったということだそうです。

それでは、この9月25日の区民会議フォーラムについて、ご意見、あるいはご質問等ございますでしょうか。

<委員から特になし>

それでは、続きまして、資料4、第2回、来年の初めに行う予定の区民会議フォーラムの概略ですけれども、こちらについて何かご質問、あるいはご意見等ございますでしょうか。

これは先ほど部会長のほうからもお話がありましたけれども、次回の区民会議で、今回、9月の確認をしているのと同じような形で検討していくという形の流れになっているということでございます。よろしいでしょうか。

<委員から特になし>

それでは、議事の3番目になります、企画部会の検討経過報告及び意見交換についてご承認いただけますでしょうか。

<委員、承認>

——それでは、本日の議事が終了いたしました。

3 その他

武濤委員長 その他に入らせていただきます。

今、こちらのほうで審議すべき事項はございませんが、委員の皆様の方から、この場でご提案等あれば、それについて検討していきたいと思いますが、何かございますでしょうか。

<委員から特になし>

それでは、ほかに特にご提案等ないようでしたら、これで議事を終了とさせていただきます。

だきたいと思います。

事務局のほうから次回についてご案内いただけますでしょうか。

事務局 第6回の区民会議の開催につきましては、来年、平成24年の1月の中旬から下旬を予定しております、開催に当たりましては、日程を、後日、各委員にご照会して決定させていただきたいと思っております。

以上でございます。

武濤委員長 それでは、また後ほど、委員各位のところに日程についてのご相談等があると思いますので、よろしく願いいたします。

続きまして、本日、政局等もいろいろお忙しい中、ご出席いただきました参与の先生から、ご助言、あるいはご感想をお願いしたいと思っております。月本参与、いかがでしょうか。よろしく願いいたします。

月本参与 皆さん、お疲れさまでした。地域交流・文化部会のほうでヒアリングをされて、課題に対する具体的な解決方法について皆さんでも議論されているということと、環境・緑化部会の皆さんが生ごみのアンケートを初め、これからの里山ボランティアのモデル事業を具体的に実施していくということで、本当に区民会議の委員の皆様方の率先したスタイルというのは、麻生区はかなり先進的なのではないかなと、皆さんの議論の感想として受けとめさせていただきました。9月25日の区民会議フォーラムに参加したいという方がかなりいらっしゃるということで、この区民会議フォーラムを盛会にさせていただいて、これを機にさらに地域の発展につなげていければと思います。私もできる限り、市政の場でもしっかりと皆様のご意見を参考にしていきながら活動していきますので、また今後ともよろしく願います。きょうは勉強になりました。ありがとうございました。

武濤委員長 どうもありがとうございました。私どももこの9月25日のフォーラムはしっかり準備して進めていきたいと思っております。今後とも区民会議にいろいろご助言等をよろしく願いいたします。

それでは最後に、本日の審議も踏まえまして、瀧峠区長からごあいさつをいただけますでしょうか。よろしく願いいたします。

区長 きょうも大変長時間にわたりましてご討議、ご審議、ありがとうございました。

内容、議題も非常に盛りだくさんでございまして、それだけ各部会でもご議論をいただいているということだと思っておりますが、広報の重要さですとか、関連する事業や、団体が、それぞれの部会のテーマにもいろいろあるということで、その辺の大切さを改めてご指摘もいただいているのかなと思っております。それぞれのテーマを、部会でご議論、取り組みをしていただいている中で、関連する団体ですとか、主催者の方々へのヒアリングですとか、生ごみの問題については、広くアンケートをしていただいたり、グリーンアップ・里山ボランティアの関係では、もちろん現地にも足を運んで

いただいたり、少し体験的なことも事前にしていただいているということで、現場に即したというか、非常に現状に即した把握や分析というところから始めていただいているということで、大変恐縮な言い方なのですが、地に足のついた取り組みで進められていると感じました。逆に言いますと、それだけ手間や時間がかかるということなのかもしれないのですが、一方で、区民会議の任期も2年ということで、限りがございますところ、これからまたフォーラムですとか、提言書の取りまとめ等もお願いするわけです。まだこれから大変なご苦勞をおかけするというと失礼ですが、お時間もちょうだいすることになるかと思えます。もちろん区としても精いっぱい頑張ってもらいたいと思えますので、今後ともぜひよろしくお願ひいたします。

きょうはどうもありがとうございました。

4 閉 会

武濤委員長 ありがとうございます。今、区長がお話くださって、なるほどと思っていたのですが、それぞれの部会で1つ1つ非常に綿密な話し合いで深く掘り下げる。この区民会議で全体像を見たところで、確かに今おっしゃっていただいたように、ヒアリング、アンケート、フィールドワーク等、そういったようないろいろな手法で今進んできているのかなと思えます。あと残された時間の中で、いい形で進められていければと思います。

それでは、これで第5回麻生区区民会議を終了いたします。皆様、長時間のご審議、どうもありがとうございました。

午後4時44分閉会